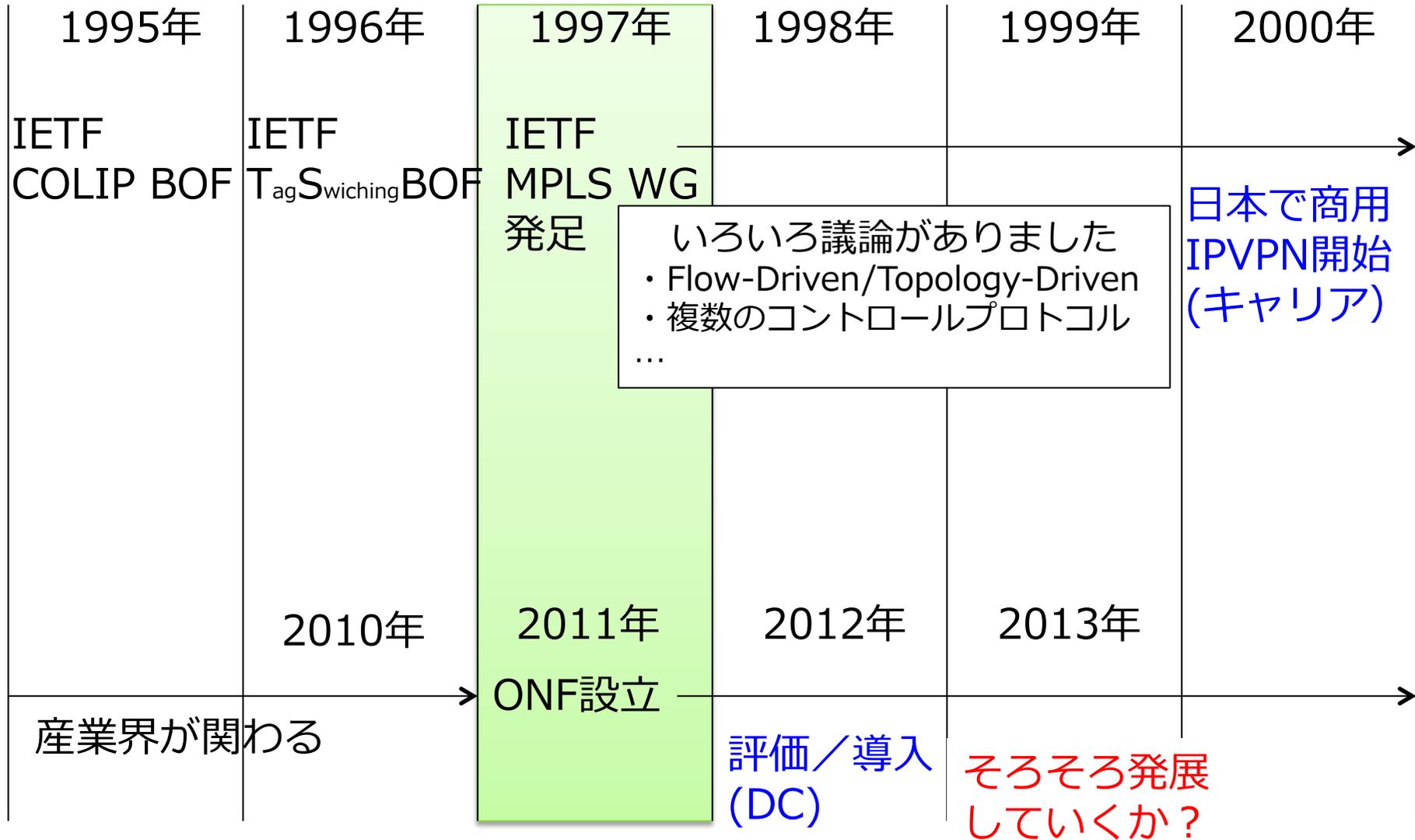


SDN meets MPLS

永見 健一 (インテック)

MPLSとSDN

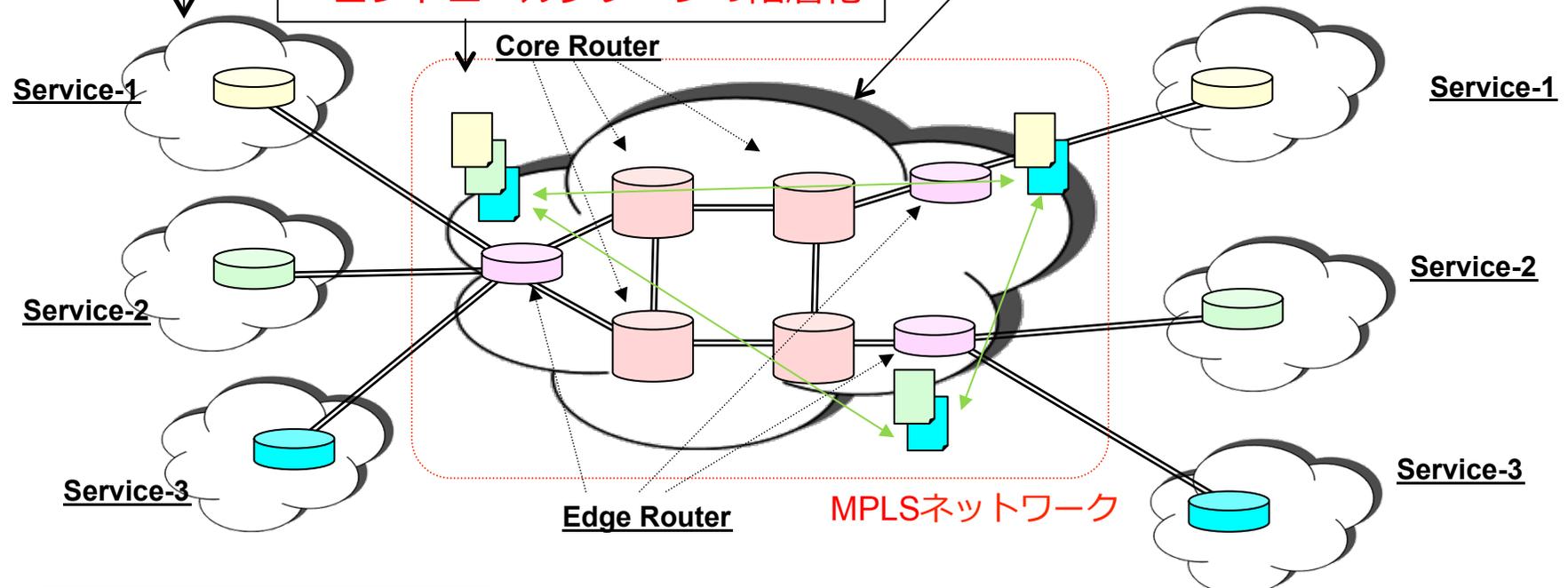


MPLSのアーキテクチャの特長

① ネットワークの論理分離
IP-VPNなどのネットワーク仮想化
様々なネットワークサービスを構築
ラベルの階層化

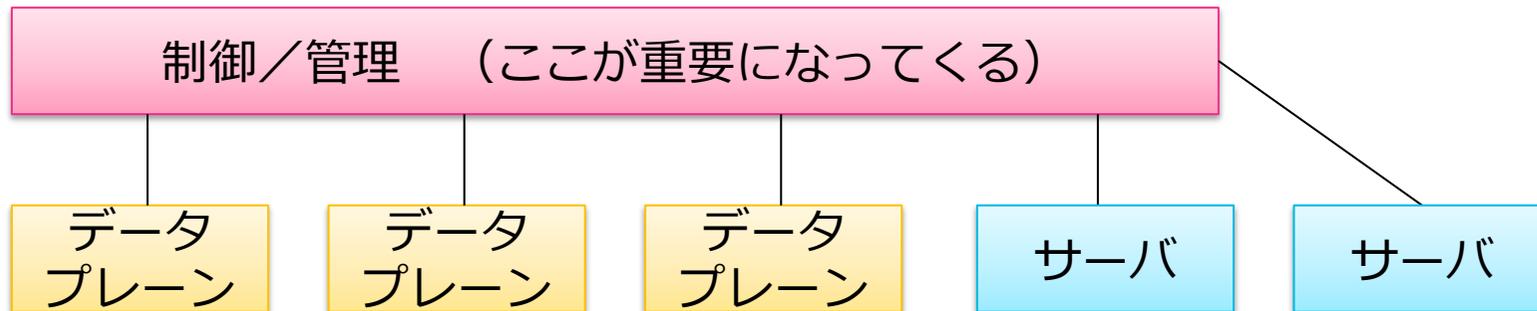
② コアとエッジの分離
コアは複数サービスの共通基盤
コアはシンプル
エッジで新サービスを提供
コントロールプレーンの階層化

③④ TE, 高速切替
柔軟なトラフィック制御
ラベルの利用



- コントロールプレーンとデータプレーンの比較
- 適材適所で利用





- SDNは制御を自由にできる。柔軟性は高い。
ただし、何でも自分でやる必要あり
 - 制御ソフトウェアが汎用のものが出てくるか？
 - MPLSの知恵をいれると嬉しくなるのか？
 - 集中制御？分散制御？
 - コアとエッジの分離
 - Flow-Driven/TopologyDriven, (Reactive/Proactive)
 - ラベルのようなタグの利用
- 多くのフィールドを見るよりスイッチの作りは簡単になるか

- ソフトウェアから容易に制御できる使いやすいAPI

